

2 「障害者就労支援員（ジョブサポーター）養成・派遣事業」（市民活動団体提案協働事業）
（かまくら福祉・教育ネット、障害者福祉課）

- Q 市側の対応を含め、1年目と比べて2年目に変化はあったか。
- A（団体） 市側の対応は、非常に助かっている。企業の視察なども必ず市の職員が付いて来てくれた。打合せの際にはアドバイスをもらい、必要があるときは手紙などを書くなど迅速に対応してくれた。障害者が就労して定着するには、長い時間がかかる。企業側も障害者にどう接していいのかわからず遠慮している部分がある。コミュニケーション能力があまりない障害者は、ジョブサポーターが付くといろいろなことを話してくれる。それを企業側に伝え、仕事上でのコミュニケーションが良くなったということがあった。
- Q 一人ひとり丁寧に寄り添わなければならない、市民活動団体だからこそ、ここまでできるのだという思いがした。大変貴重な事業だと思っている。達成できなかった点について、利用者数が増えなかった原因と今後の展望で事業開始当初には想定できなかったものを教えてもらいたい。
- A（団体） 利用者数は、就労支援をしようとしたのだが、よこすか就労援助センターが鎌倉からは行きづらいというのがあった。事業を開始してみると、辻堂にある湘南地域就労援助センターに登録している人が非常に多かった。忙しい中で就労援助センターは定着支援を行い、企業と顔もつないでいるので、我々がぱっと行っても、仕事を分けてもらにくい面がある。想定できなかったものは、障害の範囲や今後は発達障害の人やメンタルを抱えている人の支援もあるかもしれないという点だ。就労援助センターに登録していない人の支援や生活、余暇支援などもある。企業は仕事のことはきちんと教え管理するが、生活や余暇までは関知しない。お金の使い道や家のことなどどこかが把握する必要があり、その手伝いができないかと思う。生活、余暇支援があつてこそ就労につながる。自分で余暇を作るのが難しい人が多かったのが想定外だった。
- Q これこそ市民の活動だと感動した。定着支援ということで、企業に会員になってもらうことを考えているか。
- A（団体） あまり考えていない。企業に会員になってもらえればもっといいかもしれない。
- Q 2年間続けてきて、軌道に乗ってきたと感じられるところはあるか。または、課題があり改善していかないといけないと感じてところはあるか。
- A（団体） 軌道に乗ってきた感はある。支援のケースがあればやりたい。重大事故に発展しかねないケースもあり、問題が発生して支援に入ったこともあった。カウンセリングに似ているところもあり、支援に入って話を聞くことにより企業側も自ら対策を考えてくれるということもあった。
- Q 利用者数が少なかったということだが、16人のジョブサポーターがフルに活動すると倍ぐらいの対応ができるのか。
- A（団体） 働いている人、小さい子どもがいる人、高齢の人などさまざまなので、16人がすべていつもフルに活動できるわけではない。月に1回というケースもあるので、まだ増やしていけるのではないかと思う。
- Q 障害者の就労支援は前向きに進む傾向になってきている中で、早くから社会的問題に向き合

っているという立場でもあるが、これから先を見越し、障害者雇用がこうあるべきというメッセージなどはあるか。

- A (団体) 社会では就労が進んでいるが、ぽっと就労できるかというと、非常に時間がかかる。例えば、雑巾一つ絞るにも何年もかかることがある。親の会ではそういうことに着目しなければ社会に出づらいとは言っている。協働事業からはずれるが、各地で就労体験のようなことがあり、子ども時代から外の人に向かって自分のできることをして、社会に受け入れられる子を育てないといけないということは考えている。